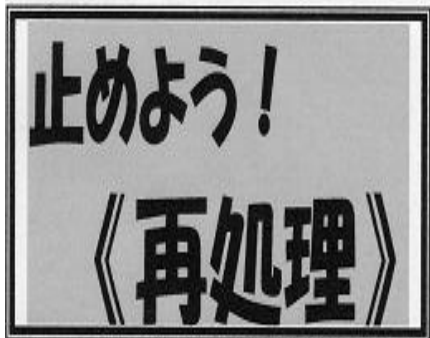


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>



《天恵の海》

2014(平成26)年
7月 14日
第143号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

**東電福島原発事故
放射性物質の分布**

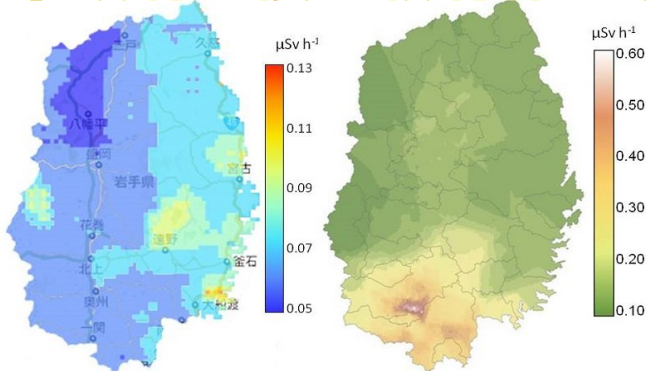
『岩手の放射能汚染マップ』報告学習会



岩手県の放射能汚染マップ

二〇一一年三月の東京電力福島第一原発事故で環境に放出された放射性物質はどのように拡散され、どのように分布しているのか？まず実態を知ろうという趣旨で、『岩手県の放射能汚染マップ』報告学習会が、六月八日、盛岡市内アイーナ会議室で開催されました。報告したのは、岩手大学農学部農学生命課程教授の築城幹典さんと、市民グループ「土壌調査プロジェクト・いわて」の方々でした。会場には約六〇人の市民が参集。事故発生後いち早く放射線測定器をクルマに積んで県内を駆け巡った報告や、子供の健康被害を心配する親たちの協力によって県内全域の土を収集して測定した報告がなされました。

事故前と後の放射線量率



原発事故前の放射線量率分布 (日本地質学会HPより) 原発事故後の放射線量率分布 2011年10月現在、地表面

(注) 原稿はカラー。白黒版ではその差が不明瞭です。
凡例：事故前 0.05～0.13 μSv/h：事故後 0.10～0.60 μSv/h

県内六四五地点を測定
市販の簡易測定器を用いて岩手県全域を八回に分けて走行し放射線空中線量率を測定しました。自動車内ダッシュボード上(地上約一メートル)に測定器を置き六四五地点を記録しました。



岩手県における空間線量率の分布
築城幹典さん

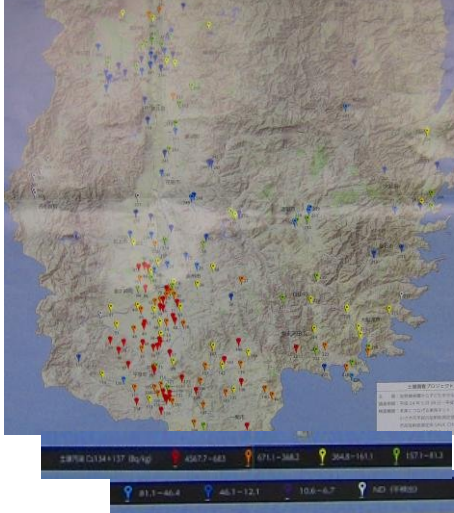
うち、一七一地点では車外での地表面の測定も行い車内測定値との差を求めました。これら全ての測定値を、二〇一一年七月二日に合わせ減衰補正し、分布マップにまとめました。

県全域でレベルアップ

測定の結果、車内測定値最高は〇・二四 μシーベルト/時、車外では〇・四五 μシーベルト/時でいずれも奥州市前沢地区の地点でした。等値線地図(上図右)を作ってみると奥州市、平泉町、一関市あたりに空間線量率の高い地点が見られました。事故前の線量分布図(日本地質学会HP・上図左)と比較してみると、岩手の大半は約〇・〇七 μシーベルト/時以下だったので全域でレベルアップしていることがわかりました。

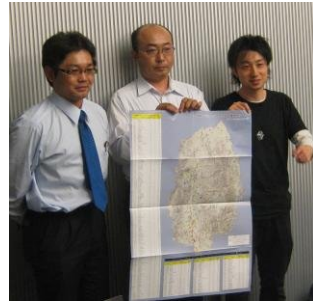
今後の正確な予測を
この降下放射性物質はどのように移動し減衰してゆくのか、さらに精密なポイント測定や予測計算が必要です。

岩手県放射能汚染マップ



セシウム134 + 137濃度凡例
 赤683 Bq/kg以上〜橙黄緑青紺の
 六段階〜白6.7 Bq/kg以下 ←

市民による土壤中放射性セシウム測定 土壌調査プロジェクト・いわて



約三百地点の放射線測定
 岩手県南部の放射能汚染が明らかにになってきた事故の翌年、「放射線被曝から子どもを守る会・いわて」が主催し

岩手県下の「土壌」の放射線を計測するプロジェクト企画が立ち上がり、岩手県南平市村や仙台在住の市民が参加し、子どもの健康を心配する親たちなどの協力で土を集め、市民放射能測定所に送る作業を約一年間行いました。

目的から調査地点は学校や幼稚園の庭や公園、空き地、道路、土手、河川敷、水田の畦地など子供の近づきそうな場所を選び、数日間雨の降らなかった日に深さ五センチの土壌採取を行いました。採取とともに、真上の五センチと一メートルの空間放射線量の測定も行いました。

深刻な土壌汚染

全三一六地点の測定結果から以下のような考察を行いました。

まず、全地点からセシウム134が確認出来ることから、放射能の高低に関わらず東電福島原発事故由来のものであることが確認できます。そして金ヶ崎町で最高値四五七〇Bq/kgであったのを筆頭に三〇〇Bq/kg以上が三

地点、二〇〇〇Bq/kg以上が八地点、一〇〇〇Bq/kg以上が四一地点、五〇〇Bq/kg以上が四七地点でした。これは岩手県が実施した一六〇地点の耕作地土壌調査結果より深刻な汚染を示しています。

またセシウム137によるチェルノブイリ事故の際の放射線汚染区分(土地)に当てはめて見ても『第四区分 放射線管理ゾーン』…「不必要な被曝を避けなければならない」とされる五六九〜二八四六Bq/kg(三七七〇〇〜一八

万五〇〇〇Bq/kg)に五三地点が該当することがわかりました。

盛岡で観測されたヨウ素と放射性セシウム

事故時岩手県内で唯一、放射性降下物の観測が行われていた盛岡市の「県環境保健センター」の公開データから、岩手には、福島原発から放出された放射性物質のプルーム(放射能を含む大気)が二〇一一年三月一八日から四月三〇日の約四〇日間に、五〜十回飛来したことがわかります。

三月二〇日にはヨウ素131が七・八三〇Bq/m³、放射性セシウムが一三二〇Bq/m³も降っています。三月一八日から五月七日までの合計では、ヨウ素131が八二四二Bq/m³、放射性セシウムが一五九二Bq/m³になりました。

金ヶ崎のヨウ素131の降下量推定

同保健センターにも近い泉屋敷児童公園では放射性セシウムは二二Bq/kgでした。このデータから、放射性セシウム同士を比較すれば、金ヶ崎町の四五七〇Bq/kgは盛岡の約二・〇倍です。半減期八日の放射性ヨウ素131は、既に消えて測定はできません。しかし、私たちの測定値と保健センターの観測値から、事故後の県南部へのヨウ素131降下量の推定は一定程度可能です。

早急な健康調査を

福島県ほどではありませんが、岩手県南には深刻な汚染箇所が存在することが明らかになりました。ヨウ素131は子供たちの甲状腺に大きなダメージを与え

た可能性があり、早急な放射線防護の体制整備が必要です。(まとめ・文責・尚)

岩手県議会は継続審議

『県南三市町の子供たちの甲状腺検査請願』
 「一関市、奥州市、平泉町の子供たちの甲状腺検査を求める請願」は七月三日県議会環境福祉委員会に付されました。結論は二月議会に引き続き「今回も継続審議とし、参考人呼び意見聴取を行う」としました。

請願グループは「福島県調査では九〇人に小児甲状腺癌の所見があり、既に、五人が手術を受けた。早急に請願を採択し検診体制を充足させるべきだ」とし、「参考人は内部被曝に詳しく子どもを守る立場の人がふさわしい」と申し入れることとしました。

前号の一部訂正

本紙一四二号二面四段に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

小見出し「放射能特措法」の改定期限は八月末→「三年経過で再検討」

記事「今年八月三十一日には改正されるということですが」→「八月三十一日以降再検討されることになりました」

土壌調査 深さ5cm×20×20cmで土を採取しN01～N0314までの伝票を付け、ビニル袋にいれ市民測定所へ送った。

市民測定所 ○「市民放射能測定所 SAVECHILDiwate」北上市 ○「未来につながる東海ネット・市民放射能測定センター」名古屋市 ○「小さき花市民の放射能測定室」仙台市

測定値 2011年6月1日現在に補正

採集期間 2012.5.28～2013.6.26

全サンプルのセシウム134 137について、減衰の補正計算を行い、同一日に合わせた。